

井上一郎先生 経歴・研究業績

履歴：

- 昭和 44 年 京都大学理学部物理学科卒業
- 昭和 44 年 米国政府イーストウェストセンタ奨学生としてハワイ大学大学院及び
マサチューセッツ工科大学大学院，物理学科に留学
- 昭和 46 年 ドイツ政府 DAAD 奨学生として，
ドイツ国立マックス・プランク研究所に留学
- 昭和 48 年 京都大学理学部研修員（～昭和 49 年 3 月）
- 昭和 49 年 日本電気（株）入社 中央研究所勤務
（研究成果のソフトウェア製品化後退職）
- 平成 3 年 京都産業大学 経営学部助教授
- 平成 6 年 同 学部 教授
- 平成 9 年 京都産業大学 大学院経済学研究科教授
- 平成 12 年 関西大学 工学部管理工学科講師 兼任（～平成 14 年まで）
- 平成 14 年 京都産業大学 大学院マネジメント研究科教授
- 平成 27 年度末 京都産業大学定年退職（平成 3～27 年度まで 26 年間在職） 京都産業大学名誉教授

学内委員：

（全学委員）

計算機運営委員会委員

情報委員会委員（平成 6 年～10 年）

教務委員会委員（平成 10 年～16 年）

（その間：セメスター制検討小委員会委員長，GPA 制度検討小委員会委員長など）

教務委員会委員長（平成 14 年～16 年）

ビジョン構想ワーキングチーム（平成 10 年～11 年）

ビジョン構想諮問委員会副委員長（平成 11 年～12 年）

自己点検・自己評価委員（平成 12 年～14 年）

教務部長（平成 14 年 10 月～平成 16 年 9 月）

大学院委員会委員（平成 18 年～20 年）

(学部委員)

経営学部自己点検・自己評価委員会 委員 / 委員長

経営学部カリキュラム委員会委員長

経営学部サーバイバル 2010 委員会委員 (平成 12 年～ 16 年)

経営学部 AO 委員会委員長 (平成 17 年～ 21 年)

経営学部教員評価委員

学外委員：

平成 12 年～ 24 年 (財) 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進コーディネータ
// MOT 講座担当委員

平成 15 年～ 22 年 大学基準協会 大学評価委員会 専門評価分科会委員

平成 19 年～ 21 年 日本私立大学連盟 大学評価委員会教員評価分科会委員 その後
// 大学教員評価委員会委員

所属学会： IFIP (国際情報処理学会) 日本経営工学会 日本経営情報学会

日本オペレーションズ・リサーチ学会, 教育システム情報学会など

その他学会委員歴：

昭和 60 年 IFIP (International Federation for Information Processing :
国際情報処理学会) WG5.7 (Computer-Aided Production
Management: コンピュータ支援・生産マネジメント) Committee 委員 (～現在)

昭和 62 年 日本経営工学会 評議員 (～平成元年, 平成 3～4 年, 平成 12 年～)

平成元年 同 学会 行事委員会委員 (～平成 3 年)

平成元年 同 学会 論文査読委員 (～現在)

平成 2 年 同 学会 国際・渉外委員会委員 (～平成 3 年)

平成 3 年 同 学会 関西支部運営委員会委員 (～平成 25 年)

平成 4 年 同 学会 関西支部事例研究会副査 (～平成 5 年)

平成 2 年 日本経営情報学会 学会誌編集委員会委員 (～平成 3 年)

平成 4 年 同 学会 論文査読委員 (～平成 25 年)

平成 5 年 同 学会 理事 (～平成 7 年, 平成 9～11 年)

平成 8 年 同 学会 関西支部副支部長 (～平成 10 年)

平成 10 年 同 学会 関西支部支部長 (～平成 12 年)

- 昭和 62 年 日本オペレーションズ・リサーチ学会 研究普及委員会委員 (~平成 7 年)
 平成 5 年 同 学会 評議員 (~平成 20 年)
 平成 5 年 同 学会 関西支部運営委員会委員 (~平成 20 年)
 平成 12 年 同 学会 編集委員会委員 (~平成 20 年)
- 昭和 62 年 International Journal of Production Research 論文査読委員 (~現在)
 平成 2 年 International Journal of Production Planning and Control 論文査読委員 (~現在)
- 平成 10 年 日本スケジューリング学会 理事 (~平成 12 年 9 月)
 日本スケジューリング学会評議員 (平成 12 年 9 月~)

社会活動：

- 昭和 62 年~ 63 年 北の技術開発研究委員会委員 北海道庁
 昭和 59 年~ 61 年 通商産業省・中小企業庁・中小企業事業団・中小企業研究所 研究委員
 平成 3 年~ 6 年 (財)大阪科学技術センター
 「製造文化委員会 工場環境 WG (ワーキンググループ)」委員
 「人間にやさしい製造文化・工場環境サブグループ指導者」
- 平成 3 年~ 7 年 (社)日本システムハウス協会近畿支部
 「生産情報管理インテリジェント化研究会」委員 (副委員長)
- 平成 5 年~ 7 年 日本能率協会 (中部地域本部) 生産技術研究会 (技術顧問) 研究部会役員
 平成 5 年~ 15 年 (財)大阪科学技術センター「CIM 化普及促進懇談会 委員会」委員
 平成 6 年~ 9 年 (財)大阪科学技術センター
 「工場立地適正化調査委員会」(通産省委託) 委員 (副委員長)
 「ニューファクトリーの評価方法に関する調査研究」
- 平成 7 年~ 9 年 京都商工会議所/京都経済同友会
 ベンチャービジネス総合支援機構 構想策定委員会委員,
 第 3 分科会責任者
- 平成 9 年~ 14 年 京都経済同友会 特別会員
 平成 9 年~ 12 年 (財)大阪科学技術センター ホワイトカラー知的生産性委員会委員
 平成 9 年~ 12 年 (財)関西生産性本部 マネジメントスクール 情報戦略コース・コーディネータ
 平成 10 年~ 20 年 日本鉄鋼協会 「鉄鋼生産・運用・物流計画のモデリングと最適化研究部会」
 委員
- 平成 11 年~ 14 年 日本ロジスティクスシステム協会
 ロジスティクス情報化フォーラム企画委員会 副委員長

研究業績：

著書，学術論文等の名称	単著，共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. Human Factors in Organizational Design and Management - II Experts Knowledge Transfer Cycle (EKTC) for System Simulation - Concept, Methodology and Tool -	共著	昭和61年	Elsevier Science Publishers	昭和61年カナダで開かれた国際会議のプロシーディングの刊行物。生産システムの業務支援システムに関してシステム構築者と業務担当者という立場・視点の異なるのエキスパートが存在することと，2者の間にエキスパート知識循環サイクルを形成することの必要性を指摘し，その形成を支援するシステム構築コンセプト/方法論を提案し，具現化の例を示した。 (分担：69頁から74頁まで) O. Brown, Jr., H. W. Hendrick 編 (井上一郎, 冬木正彦, 山田善靖)
2. Computer Applications in Production and Engineering An Expert System: Production Management Support using Simulation - Concept, Methodology and System	共著	昭和62年	Elsevier Science Publishers	昭和61年デンマークで開かれた国際会議の成果の刊行物。エキスパート知識とノウハウ利用の重要性を，生産マネジメント支援法としての生産シミュレーション，特にモデリングに焦点を当てて論じ，著書1と同様にエキスパート知識循環サイクル形成の必要性と，それを支援するシステム構築のコンセプト/方法論を提案した。さらにエキスパート知識の分類と支援ツールについて詳しく記述し，具現化の例も示した。 (分担：431頁から442頁まで) K. Bo 他 編 (井上一郎, 冬木正彦)
3. Knowledge Based Production Management Systems A Know-How Activated Simulation Tools-System For Production Management Support	共著	平成元年	Elsevier Science Publishers	昭和63年アイルランドで開かれた国際ワーキングコンファランスの成果の刊行物。スケジューリング業務に存在しているノウハウの重要性について工場の中で異なる視点があることを指摘し，計算機による支援の必要性と問題点を先ず論じた。業務担当者のもつノウハウを最大限利用しスケジューリング業務の有効性を高めることも目的としてノウハウ活性化シミュレーション法を提案し方法論を展開した。 (分担：73頁から82頁まで) J. Browne 編 (井上一郎, 冬木正彦)

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. Advances in Production Management Systems Interactive Jobshop Scheduling Activity Support System -User Interface and Case Study-	共著	平成3年	Elsevier Science Publishers	平成2年フィンランドで開かれた国際会議の成果の刊行物。著書3で提案したノウハウ活性化シミュレーション法のコンセプトに基づいて開発した、対話型ジョブショップスケジューリング業務支援システムと、それによるスケジューリング改善サイクルについて述べた。このサイクルの中核であるスケジュール自動生成機構とインタフェースツールの、設計方法論と必要機能を論じた。さらに現実問題への適用例によりその有効性を示した。 (分担：451頁から458頁まで) E. Eloranta 編 (井上一郎, 冬木正彦)
5. Production Management Methods Methods for a Production Scheduling Acitivity Support -Development and Evaluation in Practice -	共著	平成6年	Elsevier Science Publishers	平成6年ブラジルで開かれた国際ワーキングコンファランスの成果の刊行物。個別受注生産やジョブショップ型生産における納期遵守に焦点をあてて、生産スケジューリング業務の重要性と業務支援の必要性を論じた。業務支援を行う技法として、フォワードとバックワードシミュレーション法の可能性と限界について論じた後、ハイブリッドシミュレーション法を提案した。さらに、現実場のデータを用いてその方法の優位性を示した。 (分担：153頁から160頁まで) C. Walter, F.J. Kliemann, J.P.M. de Oliveira 編 (井上一郎, 冬木正彦)
6. TPM 設備管理用語辞典	共著	平成6年10月	日本プラントメンテナンス協会	TPM (Total Productive Maintenance: 全社展開設備管理/全員参加の生産保全)に関する用語辞典。生産管理および情報システムに関する項目を担当。 編集執筆代表：中嶋清一
7. 生産管理ハンドブック シミュレーションベース・スケジューリング	共著	平成11年3月	日刊工業新聞社	シミュレーションの特性を確認し、生産スケジューリングのためのシミュレーションモデルとスケジュール作成過程を概観した。次にフォワードおよびバックワードシミュレーションの特性を対比し、その組合せ利用、さらにスケジュールの改善支援について説明した。 (分担：第5章4節514頁から519頁まで) 日本生産管理学会 編 (井上一郎, 冬木正彦)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
8. 生産スケジューリング	共著	平成 14 年 2 月	朝倉書店	生産スケジューリングに関する最新テーマを全般的にまとめた書籍, 黒田充 / 村松健児編. 「バックワード / フォワード法を併用したジョブショップ・スケジューリング」の章を担当. 共著者: 井上一郎, 冬木正彦 本人担当分: pp.164 ~ 178
9. 「家訓・経営理念に学ぶ—企業発展のポイント」	共著	平成 21 年	京都商工会議所企画・発行, (京都新聞開発編集, 2009. 4)	委員会主査, 全体総括・巻頭言など (15社, 88 頁)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 「モデルと組織の整合—技術的妥当性と組織的妥当性—」,	単著	昭和 62 年	オペレーションズ・リサーチ(日本オペレーションズ・リサーチ学会) vol.32, No.3, 136 ~ 141 頁	複雑化, 高度化するシステム構築 / 改善 / 評価はその困難性を増し, 「モデルによるシステム解析」が果たす役割は, その重要性を増大している. この「モデルによるシステム解析」活用の問題解決アプローチに関する技術的妥当性, 組織的妥当性を組織・システム観点から論じた.
2. A Simulation Tools-System For Production Planning Support - Workload Simulation Hybrid Method and JL Tools-System -	共著	昭和 62 年 8 月	Proceedings of the IXth International Conference on Production Research 1476 ~ 1482 頁	生産計画 / 評価活動を効率的に支援することを目的とした負荷シミュレーション法を提案した. この方法は, 従来の負荷手法とシミュレーション法の長所を組み合わせたハイブリッド法と見なすことができる. この方法を組み込んだシミュレータを中核とした JL ツールズシステムを説明し, このシステムの適用例を示した. (井上一郎, 冬木正彦, 宗実俊和, 西村忠雄)

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
3.「組織柔軟性向上のための生産システム構築・実施論 —"セクター最適性"コンセプトと支援ツール—」	共著	昭和 63 年	組織科学（組織学会） vol.22, No.1, 37～52 頁	生産システムの柔軟性向上については、生産システムを生産機械・人間・組織を含む総合体と認識する必要があること、さらに、“セクター”の集合体として捉えることが不可欠であることを述べる。このセクター間／内における “最適性探究” 行動は運用の際の評価活動により加速・強化されることを示す。さらにこの評価を支援するためのシステムの考え方を提案し、システムの構築、実施例について論じた。 (井上一郎, 山田善靖)
4.「自動化指向ファクトリーとヒューマンファクタ・その評価について —生産システム＝コミュニティ（社会）システム論の立場から—」	単著	昭和 62 年	機械技術, vol.35, No.1, 37 ～43 頁	ファクトリーにおける柔軟性、さらに自己成長性をいかに組み込むかは重要課題である。本論文では、ファクトリーがファクトリーとしてその機能をまっとうするにあたっては、ファクトリーの物流システム、情報システム面だけではなく、人間的側面、組織的側面さらにその組織内の人々が共有する文化の側面もあわせて考慮していくことの必要性を指摘し、その方法論を論じた。
5. Object Oriented Programming in Production Management - Two Pilot Systems -	共著	昭和 63 年 5 月	International Journal of Production Research 26 765～776 頁	オブジェクト指向プログラミングを用いた生産マネジメントシステムを論じている。Smalltalk-80 を用いて地理的にも離れて独立に構築した 2 つの事例を比較対象とした。両者の共通点を抽出することにより、オブジェクト指向プログラミングがユーザインタフェースの設計及び段階的開発において優位であること、コミュニケーションツールとしてのシミュレーションに Smalltalk を利用できることを示した。 (Jari Alasuvanto, Eero Eloranta, 冬木正彦, 木田智之, 井上一郎) Eloranta と対等に企画し、日本側の事例を構築し、執筆を分担した。

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
6. Multi-Layer Expression and Application to PLUS/F Simulation Model - Description of A Production System with AGVs -	共著	昭和63年12月	Bulletin of Japan Society of Precision Engineering 22 283 ~ 288 頁	搬送系を含む生産システムを対象としたシミュレーションモデルの記述法として多階層表現法を提案した。搬送系と製造系はそれぞれ別の層 (layer) 上に表現するものとし, それぞれに属するモデル要素の, 層間での同期や参照の方式を導入した。AGV が組み込まれている現実のシステムへの適用例を, 提案方式の有効性を示す例として挙げた。 (井上一郎, 冬木正彦, 木田智之, 中平直司, 伊藤郁男)
7. Job-Shop Scheduling Expert System Based On Know-How Activated Simulation Concept -System Development and Case Study-	共著	平成元年 11 月	1989 IIE Integrated Systems Conference & Society for Integrated Manufacturing Conference Proceedings 483 ~ 488 頁	計画策定者が行うのと, 通常のシミュレーション法で行うスケジュール決定方式の違いをまづ指摘した。計画策定者の決定法に特徴的な機能をシミュレーション法の枠組みに取り入れる方式を具体的に提案した。この機能を組み込みノウハウ活性化コンセプトに基づいて構築した支援システムを紹介し, 機械加工ショップへの導入例をこの方式の実用的な有効性を示す例として挙げた。 (井上一郎, 冬木正彦)
8. A Socio-Cultural Aspect of "One-of-a-Kind Production (OKP)" — A Potential Aspect of "OKP" in Japan —	単著	平成 4 年	'One-of-a-Kind' Production: New Approaches (Hirsch, B.E., et al. (eds.)), North-Holland, pp.393-396	One-of-a-Kind-Production (一品生産方式) に関する社会的・文化的側面を考察し, さらに日本での可能性を論じた。
9. FA ソフトウェア開発に関する組織論的考察 —生産管理システムを例にして—	単著	平成 4 年 10 月	精密工学会誌 58/10, 30 ~ 33 頁	生産管理システム (ソフトウェア) 開発に関する問題点を組織的視点から分析し, 原因考察を行う。さらに, 問題解決のための方向性を論じた後に, 具体的方策を提案した。

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
10. 大規模生産システムにおける計画業務支援のためのシミュレーションシステム LSIP - モデルとシミュレーター	共著	平成4年12月	シミュレーション (日本シミュレーション学会) 11 314 ~ 324 頁	大規模生産システムにおける計画業務支援を行うためには, 現実規模 (大規模) のデータの扱い, 高速処理, 大量情報の情報要約等の技術的課題を解決する必要がある。本論文は, これらの技術課題を解決するため, 大規模生産システム記述のための LSIP モデルを提案し, さらに, モデルの計算機への実装方法とシミュレータの具現化について論じ, 現実の LSI 拡散生産システムの大規模データを用いた実験例により, 具現化したシミュレータの高速性を示した。 (冬木正彦, 井上一郎)
11. Factory Automation Software Development with the Consideration of Organizational Aspects",	単著	平成5年	Journal of Advanced Auto-mation Technology, vol.5, no.5, pp.240-243	ファクトリーオートメーション (FA) および生産管理システムの分野におけるシステム開発の諸問題を組織・システム科学的観点より分析する。問題の原因探究を行った上で, 問題解決の方向性を示し, 具体的解決策を提案した。
12. シミュレーション法活用の生産スケジューリング支援	共著	平成6年7月	計測と制御 (計測自動制御学会) 33 547 ~ 553 頁	「生産スケジューリング」特集号の解説論文。生産スケジューリング及びそのシステム化の現状を概観し, さらにスケジューリング業務及び関連ノウハウを組織・システム科学的観点から分類した上で, シミュレーション法が生産スケジューリングシステム構築には極めて有効かつ可能性の高い技法であることを説いた。続いて, シミュレーション法活用のシステム構築に当たってのシステム具現化法について述べ, 最後に適用事例について述べた。 (井上一郎, 冬木正彦)
13. A Simulation Based Planner's Tools-System for Supporting Production Scheduling Activities	共著	平成6年8月	Proceedings of New Directions in Simulation for Manufacturing and Communications ORSJ, 505 ~ 511 頁	平成6年東京で開かれた国際会議のプロシーディングス。著書5と同様, 生産スケジューリング業務の重要性と業務支援の必要性, 及び業務支援を行う技法としてフォワードとバックワードシミュレーション法の可能性と限界について論じ, 学術論文13で詳説しているハイブリッドシミュレーション法を提案した。更にツールズシステムコンセプトに基づいてこの方法を組み込んだ支援システムの構成を記述した。 (井上一郎, 冬木正彦)

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
14. “ノウハウ活性化シミュレーション法”に基づく生産スケジューリング業務支援—組織・システムアプローチ—	共著	平成7年3月	オペレーションズ・リサーチ 40 159～164頁	実践講座「スケジューリング問題の新解法」の解説論文。内容は学術論文10と重なる部分が多いが、組織・システムアプローチにおけるスケジューリング問題の見方の記述と、スケジューリング技法/スケジューリングシステムの実用的仕様については新たに書き加えた。 (井上一郎, 冬木正彦)
15. バックワード/フォワード・ハイブリッドシミュレーション法に基づく個別受注生産における納期重視型生産スケジューリング	共著	平成7年6月	日本経営工学会誌 46 144～151頁	納期重視型の生産スケジューリング問題に焦点を絞り、シミュレーションベースの新技法を提案し、従来技法と性能比較してその有効性を示した。性能比較は、5機械単純ジョブショップ過程モデルだけではなく、現在現実に稼働中のシミュレーションベースのスケジューリングシステム上での性能比較も行い、提案の新技法が従来法よりも優れた性能を有することを示した。 (冬木正彦, 井上一郎)
16. シミュレーションベース納期重視型生産スケジューリングの改善フェーズにおけるパラメータ空間探索改善法	共著	平成10年2月	日本経営工学会論文誌 48 370～377頁	シミュレーションベースの納期重視型生産スケジューリングの改善フェーズの問題点を明らかにし、そのフェーズにおける系統的な改善法“パラメータ空間探索改善法”を提案し、その有効性を示した。有効性は、5機械単純ジョブショップ過程モデル上での評価だけでなく、現在現実に稼働中のシミュレーションベースのスケジューリングシステム上での評価を行うことにより、提案法の有効性を示した。 (冬木正彦, 荒川雅裕, 古市吉男, 井上一郎)
17. 生産活動における創造性創出・強化のためのシステム構築	単著	平成10年3月	IEレビュー 204, 4～9頁	「自動化/無人化」の狙いと効果を再考した上で、自動化・システム化のあるべき姿を論ずる。さらに現在極めて高い関心を集めている生産マネジメント業務を具体例に取り上げ、創造性創出・強化のためのコンセプトおよび具体化のための方策を提示した。

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
18. 納期遅れジョブ数最小化を目的としたシミュレーションベースのスケジュール作成法	共著	平成10年7月	システム制御情報学会論文誌 11 394 ~ 400 頁	個別受注生産における納期遅れジョブ数最小化を目的として, バックワード/フォワード・ハイブリッドシミュレーション法を用いたスケジュール作成方式を提案し, 数値実験によりその有効性及び実用性を示した. 提案方式は, シミュレーション過程でのディスパッチング時にジョブのプライオリティを調整できるジョブ区分パラメータおよび納期余裕変更パラメータと呼ぶ2つのパラメータを導入することに特長がある. (冬木正彦, 荒川雅裕, 杉原俊昭, 井上一郎)
19. シミュレーションベース生産スケジューリングの改善フェーズにおける納期遅れ分析ツール	共著	平成10年7月	システム制御情報学会論文誌 11 415 ~ 417 頁	シミュレーション・ベースの生産スケジューリングにおいて, ジョブの納期遅れの視点からスケジュール案の分析/評価と改善策の案出を支援する方策として, 「納期ずれ-待ち時間散布図」と「ジョブ特性一覧表」を組み合わせた「納期遅れ分析ツール」を提案し, ツールを開発した. このツールを用いることにより納期遅れの要因分析が容易となり, さらに, 散布図に表示されている「補助線」を基にスケジュール改善の方向を見出すことが可能となった. (冬木正彦, 荒川雅裕, 江頭慎太郎, 井上一郎)
20. "A Systematic Improvement Method in Simulation-Based Production Scheduling Process"	共著	平成10年10月	Proceedings of the First China-Japan Joint Conference on Industrial Engineering and Management, Beijing, China 68 ~ 75 頁	シミュレーション・ベースのスケジューリング立案過程において, スケジューリング案の最適化に関するシステムズアプローチを論じている. ここでは, 「パラメータ空間探索改善法」におけるパラメータ設定法について論じ, 3つのパラメータ空間例に論究している. (冬木正彦, 荒川雅裕, 井上一郎)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
21. シミュレーションベーススケジューリングにおけるパラメータ空間探索改善法のためのパラメータ設定法	共著	平成11年1月	システム制御情報学会論文誌 12巻, 1号 63～65頁	パラメータ空間探索改善法における当初スケジューリングの特性に基づいて書くジョブの相対的なプライオリティの変更度を定める新しいパラメータの設定法を提案した。この方式の有効性評価は、納期関連の3つの評価基準、平均納期遅れ時間、納期遅れジョブ数、および最大納期遅れ時間にとし、単純ジョブショップ過程モデルおよび稼働中の現実システムのモデル上でを行い、提案方式の有効性を確認した。 共著者：荒川雅裕, 冬木正彦, 杉原俊昭, 股野健治, 井上一郎
22. A Systems Approach for Enhancing Organizational Intelligence in Production Management	単著	平成11年8月	Proceedings of the 15th Triennial Conference of IFORS, Beijing, China, Aug. 16-20, 1999, p. 66.	生産経営における柔軟性・創造性向上は、生産企業の存続・成長のキーファクターであり。企業のコア・コンピタンス確立のためには不可欠要素である。この観点から、組織内の情動的側面、とりわけ、“組織知能”向上に注目し、システムズ・アプローチを論じ、その方策を展開した。
23. "An Adaptive Method to Due-Date Criteria in Simulation-based Production Scheduling"	共著	平成11年10月	Proceedings of the Second Asia-Pacific Conference on Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS(99)), Kanazawa. 225～228頁	納期ずれ時間の総計（納期前ずれ時間と納期遅れ時間の合計）の最小化を目的とした、シミュレーション・ベースのスケジューリング技法を提案した。この方式の有効性評価は、単純ジョブショップモデル上のみならず、稼働中の現実システムの実際モデル上でもを行い、提案方式の有効性を確認した。 共著者：荒川雅裕, 冬木正彦, 井上一郎
24. 大規模複雑系生産システムにおける生産マネジメント——組織・システムズアプローチによる生産スケジューリング業務支援——	単著	平成11年11月	鉄鋼生産・運用・物流計画問題のモデリングと最適化研究会シンポジウム"大規模複雑系へのアプローチ"予稿集, 計測・制御・システム工学部会, 鉄鋼協会, 1～8頁	生産経営の中でも、特に、時間的資源のマネジメント、とりわけ生産計画・スケジューリング技術が競争優位確保のコア技術と位置づけている。生産システムは近年変品種変量生産が進む中、ますます大規模化、複雑化の様相を強めてきており、生産計画・スケジューリングの効率化・質的向上は急務である。本稿においては、生産スケジューリングを組織・システム科学の観点から焦点をあて、生産スケジューリング支援技術を論じた。

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
25. "A Simulation-Based Capacity Adjustment method for Job Shop Production Scheduling"	共著	平成 12 年	Proceedings of the Third Asia-Pacific Conference on Industrial Engineering and Management Systems, Hong Kong. 84 ~ 90 頁	生産マネジメント・スケジューリング業務における能力調整を考察し, シミュレーションベースの能力調整法を提案した. この方式は現実データを用いて, その有効性を確かめた. 共著者: 荒川雅裕, 冬木正彦, 中西弘樹, 井上一郎
26. ジョブショップ生産スケジューリングにおけるシミュレーション法利用の能力調整法	共著	平成 13 年 2 月	日本経営工学会論文誌 51 603 ~ 612 頁	納期重視型の生産スケジューリング業務においてスケジュールに納期遅れが発生した場合の能力追加法に焦点を絞り, ここではパラメータ空間探索改善法を能力追加を決定する問題に適用しシミュレーション法に基づく系統的な能力調整法を提案した. さらに, 現実の計画条件データを用いてその方法の有効性を示した. 共著者: 荒川雅裕, 冬木正彦, 中西弘樹, 井上一郎
27. 納期関連評価指標値の最適化を指向するシミュレーションベース生産スケジューリングスケジュール生成法と納期はずれ最小化スケジューリング法	共著	平成 13 年 6 月	日本経営工学会論文誌 52 (2) 80 ~ 91 頁	生産スケジュールにおけるジョブの納期遅れと納期前ずれの和を納期はずれ評価指標値と呼び, その最小化を目的とするシミュレーションベースのスケジューリング法を提案した. さらに, 現実の計画条件データを用いてその方法の有効性を示した. 共著者: 荒川雅裕, 冬木正彦, 井上一郎
28. An Optimization Method for Simulation-Based Job Shop Scheduling Incorporating Capacity Adjustment Function	共著	平成 13 年 8 月	16th International Conference on Production Research, CD-ROM, ISBN 80-02-01438-3, A7.4.	生産マネジメント・スケジューリング業務における能力調整を考察し, シミュレーションベースで最適化を志向する能力調整法を提案した. チェコ, プラハにて開催 (July 29 (August 3, 2001) の国際会議, 16th International Conference on Production Research, Prague, Czech にて発表. 共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyuki and Ichiro Inoue

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
29. A Simulation-based Production Scheduling Method for Minimizing the Due-date-deviation	共著	平成 14 年 3 月	International Transaction in Operational Research Vol. 9, No.2 pp.153-167	生産マネジメント・スケジューリング業務における, "納期はずれ" 最小化を志向する納期遵守型シミュレーションベース・スケジューリング法を提案した. さらに, 現実の計画条件データを用いてその方法の有効性を示した. 共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyuki and Ichiro Inoue
30. An Opimization-Oriented Simulation-Based Job Shop Scheduling Method with Four Parameters Using Pattern Search	共著	平成 14 年 6 月	Proceedings of International Symposium on Scheduling 2002 (ISS2002) pp. 67-70.	最適化志向のシミュレーションベース・ジョブショップスケジューリング法を提案した. 4パラメータ空間を設定しパターンサーチを行うことによって高速化を図る. なお, 本方式の有効性は現実データを用いて示した. 浜松にて開催された国際会議 (June 4-6, 2002) にて発表. 共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyuki and Ichiro Inoue
31. Improvement and Evaluation of Optimization-Oriented Simulation-Based Scheduling Method for Due-Date Conformance Production Scheduling	共著	平成14年12月	Proceedings of The Fourth Asia-Pacific Conference on Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS'2002) pp. 299-302.	シミュレーションベースの生産スケジュールにおける改善および評価法を論じた. Taipei, Taiwan R. O. C. にて開催 (Dec. 18-20, 2002) の国際会議 The Fourth Asia-Pacific Conference on Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS'2002) にて発表. 共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyuki and Ichiro Inoue
32. An Optimization-Oriented Simulation-Based Job Shop Scheduling Method with Four Parameters Using Pattern Search	共著	平成 15 年 3 月	JSME International Journal Series C, Vol.46, No.1, pp.81-87	上記 30 の国際会議 ISS2002 の selected paper として選抜. 同論文を加筆, version up. 共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyuki and Ichiro Inoue
33. Planning System to Achieve Short Lead Time by Reassigning In-Process Jobs to Promised Order"	共著	平成 15 年	Proceedings of the IFIP WG5.7 Working Conference on Human Aspects in Production Management-Vol. 2, pp. 65-71,	Karlsruhe Oct. 2003 共著者: Masahiko Fuyuki and Ichiro Inoue

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
34. 納期遅れジョブの削減・解消を目的とする能力追加を考慮したシミュレーションベース生産スケジューリング法, A Simulation-Based Scheduling Method with Capacity Addition Aiming to Eliminate Job Tardiness	共著	平成 15 年	システム制御情報学会論文誌, 16 巻 9 号, 2003 年 9 月 15 日, 451 頁～ 460 頁	共著者: 冬木雅彦, 井上一郎
35. 小ロットジョブの割り込み操作を含む納期重視スケジューリング, Due-Date Conformance-Oriented Production Scheduling Method Including Small Lot-Size Job Intervention,	共著	平成 16 年	システム制御情報学会論文誌, 第 17 巻 11 号, 2004 年 11 月 15 日, 479 頁～ 488 頁.	共著者: 関根 宏, 荒川雅裕, 冬木正彦, 井上一郎,
36. Due-Date Conformance-Oriented Scheduling Method Allowing Small Lot-Size Job Intervention”,	共著	平成 16 年	Proceedings of International Symposium on Scheduling 2004, Kobe, Japan, May 24-26, 2004, pp. 185-187.	共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyuki, Hiroshi Sekine and Ichiro Inoue,
37. 競争優位創出のための戦略指向“技術業務”分析評価方法論——技術者のノウハウ・暗黙知に関する形式知化展開	共著	平成 16 年	経営情報学会 2004 年秋期全国研究発表大会 予稿集, 2004, 11 月 13-14 日, 418 頁～ 421 頁.	共著者: 豊島正利, 井上一郎
38. 情報セキュリティマネジメントのための“パラダイム革新プロセス”提案”	共著	平成 16 年	経営情報学会 2004 年秋期全国研究発表大会 予稿集, 2004, 11 月 13-14 日, 331 頁～ 334 頁.	共著者: 東本謙治, 井上一郎,
39. 生産計画・スケジューリング業務と戦略展開	単著	平成 17 年	IE レビュー, 240 号 Vol.46, No.2, 2005.5, 6 頁～ 12 頁	

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
40. 中小企業製造業における戦略指向の“現場技術力”強化プロセスモデルの提案	共著	平成 18 年	関西実践経営(実践経営学会関西支部), 第 31 号, 2006.6, 99 頁～ 113 頁.	共著者: 豊島正利, 井上一郎
41. V インターンシップ (IT 活用進化型インターンシップ) — 産学協同能力開発と知恵のマネジメントに関する基本コンセプト—	単著	平成 18 年	経営情報学会 2006 年秋期全国研究発表大会 予稿集, 2006, 11 月 11-12 日	
42. 進化型インターンシップ“V インターンシップ”の試行と成果	単著	平成 19 年	社会人基礎力の向上に向けた産学連携による新たな仕組み作りを考えるシンポジウム, 2007.2.7	
43. 産学協同教育としてのインターンシップとそのシステム展開 — ナレッジ・マネジメント活用の「V インターンシップ」—	単著	平成 19 年	教育システム情報学会研究報告, Vol.22, no.5 (2008-1), 2008.1, 13 頁～ 16 頁	
44. インターンシップと能力開発・人材育成: その可能性と実践展開 —「V インターンシップ」のコンセプト/システム開発および実践事例—	単著	平成 20 年	サイエンティフィック・システム研究会, 2008 年度教育環境分科会 第 2 回会合, 2008. 10.22	
45. 継続的改善/改革のための“組織・システムアプローチ” — 組織を活性化してみんなの知恵で問題解決: 実践事例を交えて—	単著	平成 21 年	大阪西労働基準協会主催平成 21 年度大阪西地区安全衛生推進大会 2009.11.13	
46. 知恵の創造・共有・活用 — 個人の知恵を組織に活かすナレッジ・マネジメント—	単著	平成 22 年	京都商工会議所 中小企業活力サロン 2010.12.9	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
47. 中小企業におけるコーチング活用問題解決支援技法に関する一考察—技法開発および運用事例—	共著	平成 22 年	実践経営学会第 56 回関西支部会, 2010.12.11	共著者：高田純也 井上一郎
48. “協働”のためのマネジメント技術（理論と実践）～上司や同僚の支援・協力を得るために～	単著	平成 23 年	近畿感染管理ベスタプラクティス研究会第 6 回セミナー 2011. 4. 23	
49. ゼミ組織における実力養成のためのシステムズ・アプローチ	単著	平成 26 年	教育システム情報学会研究報告 (JSiSE Research Report) Vol.29, No.4 pp15-18	2014. 11.8
50. 小規模組織における実力養成支援ツールに関するシステム考察——"学習基盤"コンセプトおよびその実践——	単著	平成 27 年	教育システム情報学会研究報告 (JSiSE Research Report) 30 (2) pp47 - 50 2015	

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学位論文) Production Planning/ Decision Support for Flexible Production (フレキシブル生産のための生産計画/意思決定支援に関する研究)	単著	平成5年3月	京都大学博士(工学) 学位論文 (学位記番号第2686号)	論文構成 Chap.1 General Introduction Chap.2 Production Planning/Decision in Decentralized Production Management Chap.3 Modelling and Simulation or Production Planning/Decision Support Chap.4 Load Simulation Method for Production Planning/Decision Chap.5 Backward Simulation Method for Production Planning/Decision Chap.6 Artificial Intelligence for Production Planning/Decision Chap.7 A Case Study: A Production Planning/Decision Support System in a Train Car Parts Factory Chap.8 Problems relevant to Production Planning/Decision Support Systems Chap.9 Summary

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) <その他/技術誌研究論文, 論説, 解説等> 1. "PROPS・・・An Interactive Simulator for Job Shop Production System Evaluation"	共著	昭和58年	NEC Research & Development, No.71, 1983, pp.89 ~ 97	ジョブショップ生産システムの評価用の対話型シミュレーションシステムを提案している。まず, ジョブショップ生産システムに関するコンセプトおよび方法論を論じ, シミュレーション時の大規模データの効率的処理に関しては, データ圧縮/拡張方式を導入した。現実データを用いてその有効性を示した。 (Inoue, I. and Managaki, M.)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 「現場管理ツール PLUS / EX の開発」	共著	昭和 58 年	NEC 技報, vol.36, No.7, 71 ~ 77 頁	生産活動の現場従事者（作業者, 監督者, 管理者）が容易に使いこなせるフレキシブルなジョブ管理システムを提案した。基本的コンセプト, 方法論を論じ, 実際にシステム構築した。さらに, 本システム (PLUS) を現実場に適用し, その有効性を確認した。 (前田良平, 山口勝彦, 米山真二, 井上一郎)
3. 生産システム評価支援ツールズ・システムーコンセプト/方法論 / ツールー	共著	昭和62年11月	日本機械学会第 657 回講習会教材 1 ~ 9 頁	複雑化・高度化している生産システムのシステム評価に対し, シミュレーションは有効性の高い技法であるが, その有効性を発揮させるために必要となる, シミュレーションシステム構築コンセプト, 方法論, 具現化技法を説明した。次いで, このアプローチに従い構築した 3 種のツールズ・システム FE-TLS, JF-TLS, JL-TLS とそれぞれを現実問題へ適用した事例を紹介した。 (井上一郎, 冬木正彦)
4. Real-world experiences with robustness and feasibility	共著	平成 2 年 11 月	Proc. of Third Annual WATMIMS Robust Planning and Scheduling Workshop	スケジュールの「頑強さ」を 3 レベルに分け, それぞれのレベルにおける頑強さを強化するためには, 担当者の有するノウハウを最大限活用することが重要であることを述べた。ノウハウ活性化のコンセプトに基づき開発した生産計画立案 / 評価支援システム PROPS を紹介し, 現実の製造の場への導入経験をもとに, 上述の「頑強さ」を強化できたことを示した。 (井上一郎, 冬木正彦)
5. Simulation Based Support System for Production Planning / Scheduling Activities	共著	平成 3 年 10 月	Proc. of Ninth Annual IEOR Symposium and Fourth Annual WATMIMS Workshop	シミュレーションベースの生産計画 / スケジューリング業務システムについて, 計画業務と支援コンセプト, およびシステム構築の方法論を述べた。システム構築例として, LSI 拡散生産システムを対象とした LSIP と, 組立型生産を対象とした生産計画 / 実行計画統合支援システムを紹介した。 (井上一郎, 冬木正彦)

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6. ノウハウ活性化シミュレーション法”と生産計画立案/スケジューリング業務支援	共著	平成 5 年 9 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会平成 5 年度 第 2 回 OR セミナー「離散系シミュレーション」 21～26 頁	問題解決手段としてのシステムシミュレーションの特性をまづ説明し, その特性を活かしたより積極的な活用法である“ノウハウ活性化シミュレーション法”をまず論じ, さらにシステム具現化, 及び適用事例について述べている. なお, 生産計画/スケジューリング業務支援遂行の現実場を具体例にとり説明を行った. (井上一郎, 冬木正彦)
7. 生産スケジューリング業務のシステム化—組織・システムアプローチと事例—	単著	平成 6 年 9 月	CIM 化情報(大阪科学技術センター), No.54 1～2 頁	生産スケジューリング業務支援の現状を分析し, あるべき姿を再考し, システム化法について組織・システム科学の立場から検討した. 生産スケジューリング業務に関するノウハウに焦点をあて, そのノウハウの活性化のためのシミュレーション技法を提案した.
8. シミュレーション技法活用スケジューリング支援	共著	平成 7 年 6 月	日本オペレーションズ・リサーチ学会平成 7 年度 第 1 回 OR セミナー「実践的スケジューリングの方法」 49～55 頁	シミュレーション技法は生産スケジューリングシステム構築に極めて有効かつ可能性の高い技法であると組織・科学的観点から考えられる. この技法活用に基づくスケジューリング業務支援のコンセプト, システム構築にあたってのシステム具現化法について解説し, 適用事例について紹介した. (井上一郎, 冬木正彦)
9. シミュレーション法活用の生産スケジューリング業務支援	共著	平成 8 年 7 月	システム制御情報学会編, システム制御情報チュートリアル講座 '96「実務者のためのスケジューリング技術」 83～92 頁	生産スケジューリング及びそのシステム化の現状を概観し, さらにスケジューリング業務及び関連ノウハウを組織・システム科学的観点から分類した上で, シミュレーション法が生産スケジューリングシステム構築には極めて有効かつ可能性の高い技法であることを説く. 続いて, シミュレーション法活用の生産スケジューリングシステム構築にあたってのシステム具現化法について述べ, 最後に適用事例について紹介した. (井上一郎, 冬木正彦)
10. An Optimization Method for Simulation-Based Job Shop Scheduling with Capacity Adjustment	共著	平成 14 年 7 月	Programme of the 16th Triennial Conference of IFORS, pp. 92.	英国エジンバラにて開催 (July 8-12, 2002) の国際会議 the 16th Triennial Conference of IFORS, Edin-burgh, UK にて発表. 共著者: Masahiro Arakawa, Masahiko Fuyu-ki and Ichiro Inoue

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
11. ナレッジ・マネジメントに関するコンセプトおよびその適用——競争優位創出のための“知恵”のマネジメント——	単著	平成 15 年 3 月	M&Tきょうと, No.983, 京都府中小企業センター, 6～7頁	ナレッジ・マネジメントに関する理論, 実践事例, 課題およびインプリメンテーションについて論じている。
12. 問題解決志向インターンシップ:産学協同教育と実践展開 —「Vインターンシップ」のコンセプト/システム開発および実践事例—	単著	平成 21 年	大学コンソーシアム京都 高等教育実態研究グループ研究会 2009.12.8	
13. 知恵のマネジメントと問題解決技法—人生これまた旅—	単著	平成 25 年	向塾 2013. 11. 30	
14. 知恵のマネジメントと問題解決—人生における問題解決—	単著	平成 26 年	但馬地区身体障害者協議会研修会	2014. 10. 24

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<その他/調査研究報告>				
1.「生産工程における LAN の構築に関する研究」	共著	昭和 60 年	中小企業事業団・中小企業研究所・研究報告書 <85-8>, vol.900	LAN (Local Area Network) の特徴に着目し, 生産環境の変化に対し生産システムを構築する各要素が自律的に行動し, システム全体として弾力性, 効率性を向上させるための LAN システムの構築と活用の方法について考察した。 (分担執筆章節, 3.1, 3.2, 3.3, 4.2,) 51～61頁, 97～108頁
2.「リアルタイム生産管理による自律分散処理生産システムの運用に関する研究」	共著	昭和 61 年	中小企業事業団・中小企業研究所・研究報告書 <86-7>, vol.934	生産システムの体質改善の方法を明らかにすることを目的としている。生産システム全体が効率を向上させるためには, それを形成するサブシステムが, 有機的な連携のもと, 自律的に行動することであると認識の下に, 生産システムの自律分散化と情報のリアルタイム処理について考察した。 (分担執筆章節 4.4, 286～296頁)

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3.「コンピュータリゼーション下における作業方法の変化と管理システムの向上に関する研究—FAシステムにおける人的要素を主題として—」	共著	昭和61年	中小企業事業団・中小企業研究所・研究報告書 <86-4>, vol.931	中小企業のコンピュータリゼーションの推進、導入や利用における改善や指導に資することを目的としている。コンピュータリゼーション下の①生産システム構築と管理上の問題、②労働安全衛生上の問題、③教育訓練上の問題に焦点を絞り、ユーザーズ・ファミリアなFAシステム構築について考察した。 (分担執筆第3章、57-67頁)
4.「組織柔軟性向上のための生産システム構築・実施法」	単著	平成2年3月	新生産環境創造システムに関する技術調査報告書、大阪科学技術センター	2.5節、45-52頁
5.「人間にあたたかい製造文化に関する調査研究—これからの製造システムとその環境—中間報告」	共著	平成4年6月	大阪科学技術センター（製造文化委員会）	1992.6; 11, 15-24頁
6.人間にあたたかい製造文化に関する調査研究報告書—工場環境編—	共著	平成6年2月	大阪科学技術センター（製造文化委員会）	創造性豊かで、人間にあたたかく魅力ある製造の環境—工場環境—の提案を試みている。これは、産学協同の3年にわたる研究調査の結果報告である。 工場環境総体を3レベル、つまり、企業環境レベル/工場環境レベル/作業環境レベルに分け、筆者は工場環境レベルの研究調査を統括して執筆を担当した。 (第2、4、6章担当)
7.京都ベンチャービジネス総合支援機構構想	共著	平成8年6月	京都商工会議所・(社)京都経済同友会 ベンチャー総合支援機構構想策定委員会「京都ベンチャーキャピタル(KVC)構想」 29～39頁 共同執筆	京都におけるベンチャービジネスを、情報面、キャピタル面など総合的な観点からいかに支援すべきかを一年余りに渡って検討し、ワーキンググループの結果としてまとめた。 第2分科会「京都ベンチャーキャピタル(KVC)構想」を統括および共同執筆。

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
8. 組織風土と組織活性化—情報時代の知的生産性向上のために—	単著	平成 12 年 3 月	ホワイトカラーの知的生産性に関する調査報告書, ホワイトカラー知的生産性研究会, 大阪科学技術センター, 53～56 頁	ホワイトカラーの生産性向上を目指すにあたっては, そのホワイトカラーが属する組織の構造を整備すると同時に, その組織の組織風土の改善・改革が重要であることを論じ, さらに具体的方策としての IT (情報技術) 活用の可能性と有効性について論及した。 (第 12 章担当)
9. ナレッジ・マネジメントに関するコンセプトおよびその応用—競争優位創出のための "知恵" のマネジメント—	単著	平成 15 年	M & T きょうと, No.983	2003.3, pp6-7

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<その他/翻訳>				
1. エキスパート・エグゼクティブ — 経営者のための人工知能—	分担翻訳	昭和65年11年	オーム社	生産マネジメントのためのエキスパートシステム (Chap. 7—Expert Systems for Production Management—) を担当。 131～154 頁 (監訳者: 松田武彦, 山田善靖) (原著: — (David Bendel Hertz, The Expert Executives — Using AI and Expert Systems for Financial Management, Marketing, Production, and Strategy, John Wiley and Sons, N.Y, 1988)

著書，学術論文等の名称	単著， 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
<学会表彰> 日本経営工学会 学会賞 日本機械学会 FA 部門優 秀講演論文表彰 日本経営工学会 学会貢 献賞		平成 8 年 平成 12 年 平成 22 年		